

## 「過激なラッセル主義」としての『論理哲学論考』

高村夏輝（松蔭大学）

フレーゲに始まり、ラッセルを経てウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』に至る初期の分析哲学は「論理分析」という手法によって特徴づけられる。しかしこの中でラッセルは、しばしば主となる流れから外れるとされる。その理由として挙げられるのは、フレーゲやウィトゲンシュタインが言語論的考察から議論を始めるのに対し、ラッセルは認識論的考察を言語論的考察に先行させてしまっている、という見方である。

この見方は、大雑把な哲学史的叙述だけでなく、専門的な『論考』解釈においても前提されている。すなわちアンスコム以来、『論考』はラッセルよりもフレーゲの強い影響下で書かれており、フレーゲ哲学の基本的概念・発想に引き付けて理解すべきだという考えが広く共有されている。『論考』はラッセルとは全く異なる性格を持つ哲学の書であり、ラッセルはそこではもっぱら批判の対象である、と。

今回の発表では、私はこの解釈に異議を申し立てたい。『論考』は論理分析によって哲学的問題の解消を図っているが、それはラッセルの見解と多くの共通性を持ち、ラッセルの影響下で成立したと考えるのが自然である。『論考』はラッセルから哲学の方法論を受け継ぎ、それをより過激に使用しようとしている書物である。

「ラッセル主義」を①不完全記号の学説 *the doctrine of incomplete symbols* を受け入れること、②不完全記号がもたらす哲学的問題を解決するために論理分析の手法をとること、こう規定しよう。我々は確定記述を代表とする不完全記号を本来の記号であると、すなわちその使用の文脈と独立に意味を持ちうる表現であると誤解している。たいていの場合、この誤解は何ら問題を引き起こさないが、一定の文脈では（たとえば内包的文脈）哲学的パズルが生じる可能性がある。論理分析とは、このようなパズルが生じたときに、その原因である不完全記号の使用の文脈全体に対して正しい表記を与えること（つまり正しい論理形式を明らかにする）で、パズルを解消することである。このようにして哲学的問題は解決されるとする立場、これがラッセル主義である。

この立場では、日常言語の有効性は必ずしも否定されない。実際、『プリンキピア・マテマティカ』では、確定記述句はほとんどの文脈で固有名と同様に使用できるとされている。

それゆえ「日常言語の固有名は圧縮された記述である」というラッセルの見解も、日常言語の固有名を完全に排除することを求めているのではなく、哲学的パズルを回避するために、必要な場面で記述理論を適用すべきだという主張として理解できる。

ラッセルの考えでは、日常言語を用いて表現される命題にはもちろん正しい論理形式が備わっているのだが、それが日常言語のボキャブラリーや文法によって覆い隠されてしまっている。その覆いを取り除いて正しい論理形式を明らかにすることが哲学の仕事なのである。このように理解するならば、ラッセル哲学と『論考』の距離は、一般に思われているよりもはるかに近い。それどころか、『論考』でウィトゲンシュタインが行っている「論理的構文論」の追求は、ラッセルの「不完全記号」のアイデアに基づく論理分析の実行例として理解できる。

もちろん『論考』には独自の論点とラッセル批判が含まれている。どの記号を「不完全記号」とみなすか、そしてそれをどのように消去するか、この点でウィトゲンシュタインはラッセルとたもとを分かち。ラッセルは、論理学が実在する世界の最も普遍的な構造を記述する学問であると考えていた。そして論理結合子や変項（記号）は、この普遍的な構造を形成する対象である、論理定項の名前なのだとしていた。ウィトゲンシュタインによれば、これは論理に関する根本的に間違った見方であり、たとえば論理的必然性を適切に説明することができない等の問題を抱えている。そこでラッセルとは（そしてフレーゲとも）根本的に異なる論理観を提示しようとするのだが、その際にウィトゲンシュタインは「不完全記号」のアイデアを援用し、論理結合子や変項を用いて表現される文の使用の文脈全体に正しい表記法を与え、それらが意味するとされた論理定項が存在しないことを明らかにするのである。

この解釈と従来の（フレーゲの影響が強いとする）解釈との違いは、「表現が文という脈略の中でのみ意味を持つ」という『論考』の見解を、「文という脈略の中でのみ意味論的値を割り当てる」という風には読まない、という点にある。フレーゲの文脈原理に従って関数記号の意味を扱うなら、それが意味する「概念」が世界の側に残される。しかし先の見解は、『論考』では、関数表現に意味論的値を割り当てないという基本方針の下で述べられている。関数記号の有意味性については、『論考』ではラッセルの「不完全記号」のアイデアを継承する分析が行われていると考えるべきなのである。